



第12回学習会を、平成21年4月17日(金)19:00～20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第12回目の内容

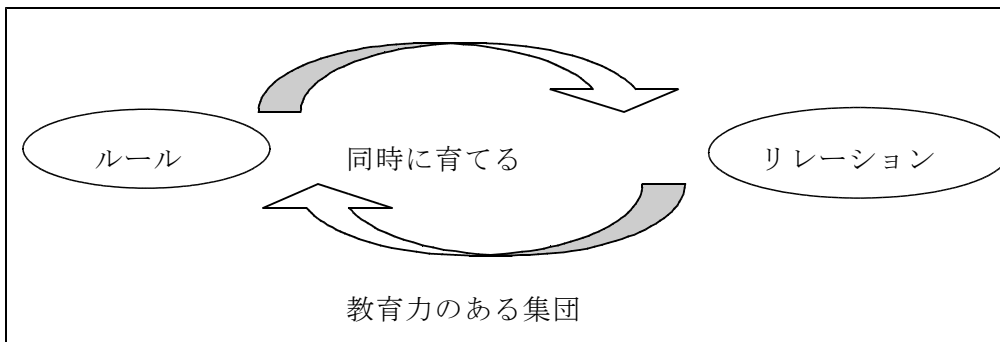
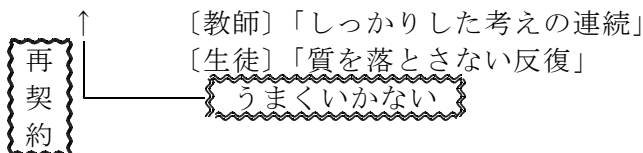
講師 重枝一郎先生(千代中学校教諭)

- 1 学級づくりの考え方(戦略)と進め方(戦術)
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの体験活動

1 学級づくりの考え方(戦略)と進め方(戦術)

(1) 学級づくりの考え方

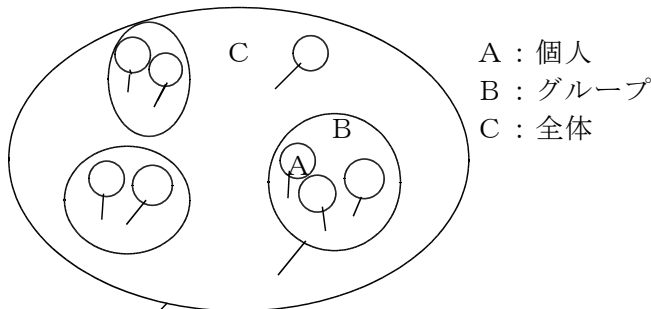
☆4月は**契約期**→どんどん自由に**教育期**をつくる



- ① 学習意欲が起こる
- ② 学習方法、技術の獲得がある
- ③ 認め合って意欲が持続する
- ④ 学習が広がり、深まる

居場所・社会性・自立確立

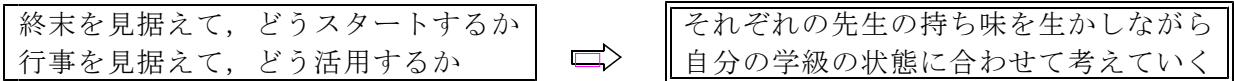
☆「集団の中で個が育ち、個の成長で集団が育つ」



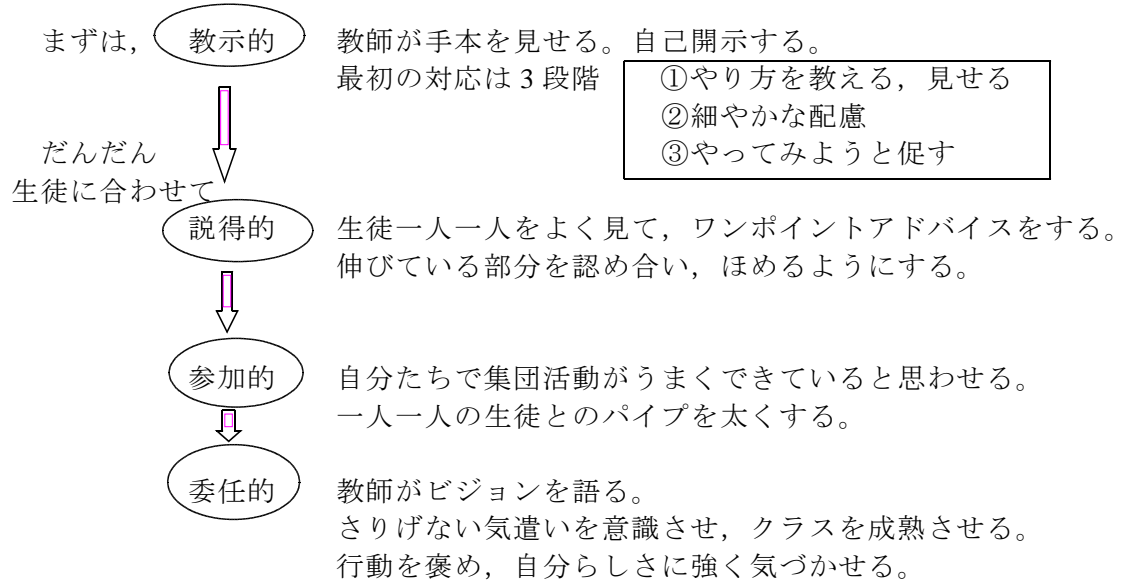
「風船理論」(※この絵は「風船」のつもりです.....)

ひとつの風船がふくらむと、集団全体がふくらむ。個人の力も大きくなっていく。積み上げていく絵はよくあるが、こういう絵をクラス掲示してもよいのでは。絵で示すと、生徒がイメージしやすい。

※「学級づくりの考え方・進め方」には、「逆算の考え方」がいる。



○教師の理想的な関わり方



※過去(去年)の自分(教師として)の姿を自己点検しながら、力量を上げていく。

☆生徒に日常的に関わるからこそ、自分自身のブレをなくしたい。

(理論 ⇄ ビジョン ⇄ 実践) このトライアングルはあるか?

☆学級担任はリーダーである。

リーダーシップには「ハードパワー」(教師という権威, 威圧, 権力)

「ソフトパワー」(人を引き寄せ説得する力)がある。

ハードとソフトの使い分けは、教師のセンスに任されている。

人気がある教師には2つの理由がある。

→人として魅力的(認めてくれる)・教師として魅力的(教え方がうまい)

生徒からどう思われているのか?

これだけは、勇気をもって自己点検しなければ何も変わらない。

☆集団の中で個を育て、個が成長すると集団が育つ。

その点検・評価は、学年や学期にとらわれず自由に設定した「教育期」に実践していく。

ワンポイントではなく、「教育期」を設定する。それは、来月のこと、来週のことを考える中で、流れをつくって生徒にアタックする。後手になるのではなく、先手を打つ。

それが、生徒を成長させるために大切なことである。教師側は「しっかりとした考えの連続」につながり、生徒は「質を落とさない反復」を積み上げていることになる。

「行事」や「設定目標」の節目も、「教育期」の流れの中に組み込む。「行事」にあわせるのではなく、先手を打つ流れの中に、「行事」を位置づけていく。

(2) 軌道修正は避けては通れない道

1学期は、生徒が荒れ始めていても、「何かおかしいな」と感じるくらいで、大きなことは起きない。1学期の荒れは目立たないのである。

だからこそ、最初にどれだけ生徒と「契約」を結べるかがポイント。まずは、「ルールとマナー」を守らせる。そのために、教師の思いをしっかりと語る。「ルールとマナーを守ることで、人間関係も同時に育てたい」ということと、そうすればどうなるのかまで、生徒にしっかり話しておく。だからこそ、ここをきびしく言うんだよ→最初にきちんと契約しておく。

最初に「契約」しておかないと、再契約することができない。

荒れ始めたら

★1学期の荒れは目立たない。

学級にルールがなく、だらしない雰囲気や友だち関係の不安が高まってくる。その不安を一時的に避けようとして本音を隠した同調的な行動をしたり、排他的なグループを形成して、その中で自己中心的にふるまうなどの防衛的な行動が定着してくる。これは、学級開きの当初のとまどいが続き、生徒たちは思い思いに自分のペースを形成し、それが定着していく。



まずは、教師主導で集団生活の約束を共有し、学級のルールを守ること、一定の型にはまった行動をとること、決めた目標に向けて努力させること。

トラブルが絶えない

★★2学期は問題行動が表面化してくる。

トラブルに対する指導は対処療法的に叱るばかりになり、なぜかトラブルの輪が広がっていく。生徒の心は教師不信、友だち不信が進んでいる。そしてますますトラブルが続出する。



初心にかえって、再契約法を活用する。そのためには、「ルール」と「リレーション」の相互関係について年度当初からこだわって話しておく必要がある。

つまり「ルール」が育つと「リレーション」が育つという洗脳活動。

- 具体的には
- ①他者とかかわるときのルール
 - ②集団生活を送るときのルール
 - ③みんなで活動するときのルール

この3つの回復をめざすために再契約法を活用する。

崩壊状態

★★★3学期の荒れははっきりしている。

生徒の中の力関係で牛耳られたルール、楽なこと、めんどくさいこと、教師に反抗すること、お互いの不信感から攻撃される前に攻撃する、その結果トラブル増加、陰口や中傷の横行、前向きな行動をした生徒には引き下げが行われる。教室で生活すること自体が難しくなる生徒が出る。



あきらめず、教師が自己開示し、ルールとリレーションをつくり直すしかない。だからこそ「荒れ始めたら」の脱出に全力を傾け、一刻も早くに対策を行う。担任の「ザ・ベスト」を強いるのではなく、教師集団ひとりひとりの「マイ・ベスト」の組み合わせでサポート体制をつくる。

※ 最初の契約ができない、再契約もできない → トラブルが絶えない → 崩壊

学級が崩壊したら、教師が自己開示しなくてはならないが、担任一人の力ではどうにもできない状態になっている。だからこそ、「その前に」という先手の考え方が大切である。

(3) 毎日の教育課程で行う「学級づくり」という考え方、進め方が大切

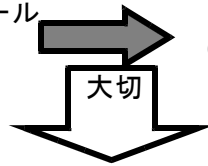
すべての場面がエクササイズ

すべての場面とは、「特別活動」「授業」「道徳」「総合的な学習」「休み時間」「放課後」「給食」「清掃」「部活動」の具体的実践の戦術が相互に連動、補完し合い学級が作られる。そして、どの場面においても「ルール」と「リレーション」を集団に確立していく。

集団に自分らしく参加することを学べるようになる。
そして、「集団が個を育て、個の成長が集団を育てる」

授業規律

授業のマナーとしてのルール



教師が守らせたいルールの一覧
(個人のスタディースキルと同時に授業マナー)

ルールと同時にリレーションを育てるために、教師のノンバーバルなフォロー、生徒のセルフエスティームを高める実践。

※授業者がまず、守らせたいルールをもっていないといけない。

うなずいてほしいなら、うなずく練習をさせる。

ハリス・ボディリスなど、反応するような契約を結ぶ。

(注：ハリスはハートリスニングの略、心で聴く。ボディリスは身体を向けて、反応しながら聴くこと)

うまくいかななくても、最初に契約を結んでいけば、ちょっとした言葉で再契約が結ばれる。

道徳・総合的な学習

人間関係づくりを重視する。つまり、聴き合い活動、認め合い活動を重点とするグループ活動を行う。「個人 → グループ → 全体」という流れを取り入れ、ひとりひとりの考えをいかし、全員参加の授業をつくり出す。

特別活動

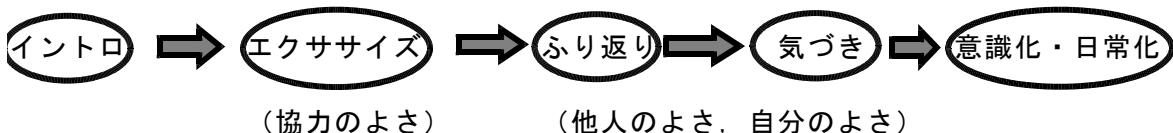
集団づくりを重視する。生徒の気づきを大切に、学級の「ルール」と「リレーション」を同時に育てる。これは生徒指導への効果も大きい。これを繰り返すことで集団の教育力が高まり、ひとりひとりが変容・成長する。

※この内容は「道徳」？「学活」？

自分の考えをもっていけば、相手を納得させられる。

(4) 実践

(SGE(人間関係づくり), GWT(集団づくり), SST(配慮のスキル, かかわりのスキル))
形式はあるが大まかには・・・



即効性はないが、集団が成熟していく楽しみがある。(開発的、積極的生徒指導)

実践例① 「ビーイング→学級目標づくり」

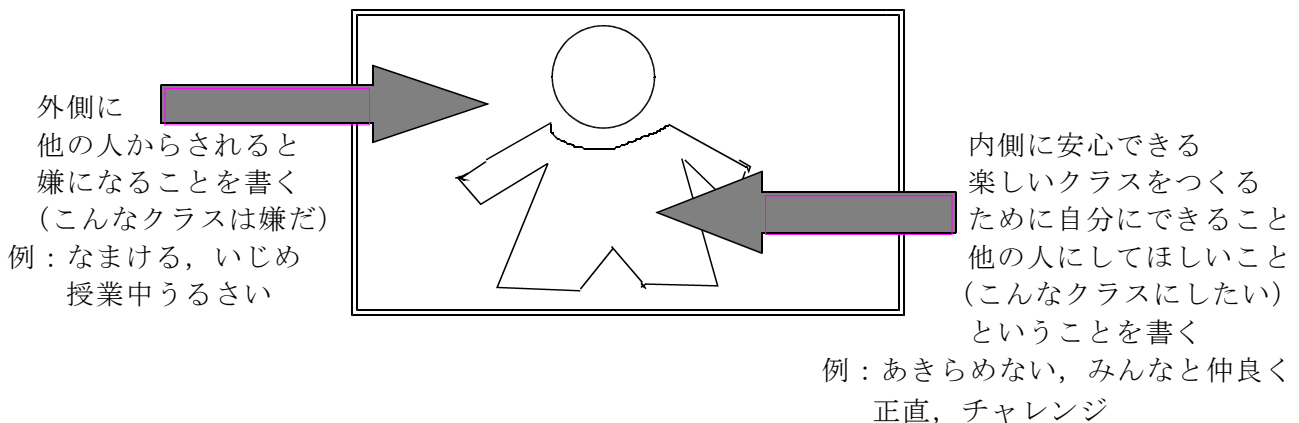
※生き方 **being** [ある傾向：自分の能力を発揮し、実践のプロセスに生きがいを確認
having [持つ傾向：財産、地位にこだわる生き方

〈ねらい〉

- クラスのルール、マナーづくり
- 居心地のよさは与えられるものではなく、獲得するものである（自己責任）
- PAプログラム（P：プロジェクト A：アドベンチャー）
＝人の本能を刺激する働きがある
- 自分たちの居心地のよさを維持するための責任は自分たちにあることを学ぶ
- お互い協力し合う雰囲気の醸成
- 生徒と安心できるクラスのルール・マナーを最初に契約する
（荒れ始めたら再契約できるように）

〈方法〉

個人のワークシートを用意して（下の図参照）人の絵の内側に、「安心できる楽しいクラスをつくるために自分にできること」を、とにかくたくさん書かせる。外側には「こんなことをされると嫌だ」という逆のことを書く。個人で書き終わったら、班でリレーションを行い、大きなワークシートに班で1枚書かせる。この時点で、クラスでのルールが『承認され契約が結ばれた』ことになる。それを、教室掲示する。



契約

個 → 班 → クラス
(承認) (承認)

- ※
- ・ブレインストーミング
 - ・KJ法
 - ・ランキング

実践例② 「魅力あるリーダーとは」

ワークシートを配り（次ページ参照）男女1名ずつの名前を書いていった。

→シェアリングしたら、クラス全員の名前が入った。

大きくタイプ分けをしたら、積極的なアグレッシブリーダー

正しい方向づけをするゲームメーカーリーダー

素直なムードメーカーリーダー に分類できる。

それぞれが、何かの役割をもっていることに気づかせた後で学級委員や班長を選ぶと効果的。リーダーとはどんな人かを、理解したうえで選ぶことになる。

ブレインストーミングで「こんなクラスにしたい」というルール・マナーを付箋紙に書いて、KJ法で分類分けを行い、その内容をランキングする。話し合う中で、意識の高まりと意識の整理が行われる。

3年生学活 **魅力あるリーダー（人）とは**

(1) 下の①～⑩の項目であてはまる人を男女1名ずつ書いてください。また、なぜその人なのかを答えられるようにしておくこと。

① 仲間の不満や気分，要求を感じとり，そのリーダーと話し合ってみたいという気持ちを起こさせるリーダー（人）

--	--

② 仲間と打ち解けて遊ぶことのできるリーダー（人）

--	--

③ 安心してついていける，真面目で，誠実なリーダー（人）

--	--

④ 大きい声で笑ったり，泣いたり，怒ったりすることができ，話の仕方が上手で表情を見ているだけで楽しくなるようなリーダー（人）

--	--

⑤ 仕事をよくやり，最後までやり通すリーダー（人）

--	--

⑥ 気持ちのでっかい，小さな事でイライラしたりくよくよしないリーダー（人）

--	--

⑦ ぐちっぽくなく，ひとりよがりしないスカッとしたリーダー（人）

--	--

⑧ 1ヶ月先ぐらいの見通しを示してくれるリーダー（人）

--	--

⑨ 仲間を言葉でなく，事実で信頼してくれるリーダー（人）

--	--

⑩ 仲間の前で約束したことをやり通すリーダー（人）

--	--

⑪親切で、わかりやすく、やる気が起こるように話をしてくれるリーダー（人）

⑫間違えたときは、意地を張らないで、誰から言われてもすぐに認めて誤りを直すことのできるリーダー（人）

(2) ①から⑫を3つのリーダーのタイプに分類してみよう

アグレッシブリーダー

ゲームメーカーリーダー

ムードメーカーリーダー

(3) 自分自身は上の①から⑫のどれにあてはまりますか？

(4) 中学卒業までにどのリーダーシップを身につけたいですか？

2 実践ビデオ紹介

「ビーイング→学級目標づくり」

実践例①で紹介した「ビーイング→学級目標づくり」を、実際に生徒が行っているビデオを見ました。

まず、いつものことですが、生徒がゾーンに入るまで（モチベーションが上がり、集中力が高まる状態）重枝先生はしゃべり続けています。この最初の語りは必須です。

「修学旅行のことを思い出してください。あの時、事前に荷物検査をしなかった。もし、荷物検査をしておいて、みんなが不要物をもってこなかったとしたら、ほめられるのは先生達です。先生達が荷物検査を徹底して行ったから、生徒は先生達の言うことをきいて、違反しなかった。みんなは、『やらされて、ほめられる』ことになります。

だけど、荷物検査もしていないのに、誰も不要物をもってこなかった。これは、生徒のみながほめられます。みんなが成長したことをほめられるのです。やらさせてできるより、自分たちで判断して、自分たちで決めて、守った方が価値があるよね。」

このような、生徒の成功体験を思い出させながら、自分たちにはできる！というモチベーションをあげさせながら、本時の活動「学級目標づくり」（契約を結ぶ）活動に入っていました。

「ビーイング→学級目標づくり」のよいところは、「安心できる楽しいクラスをつくるために自分にできること」だけを考えさせるのではなく、「こんなことをされると嫌だ」という、両面を考えさせることです。両方を考えると、ものがはっきり見えます。

まずは、個人で考えるために、列で行っていました。各自でワークシートに書き込みをしています。個人の分ができた頃を見計らって、班長を集めて指示を出します。その時に、班員は、静かに待っていないといけないという暗黙のルールが守られています。班長と先生のつぶやきのやりとりを、静かに聞くしっとりとした雰囲気できています。

班長はこんな指示をうけています。「今から、班で1枚のワークシートを仕上げます。班で承認を得て、契約を結ぶ活動です。ランキングを少し混ぜて、班で1番重要だと思うことを、絵の真ん中に書きましょう。次の時間には、それを模造紙に書きます。」先生から指示されたことを、班長は班員に伝えます。その時の班長の話声も「つぶやく」ことが鉄則です。班活動がはじまっても、しっとりとした落ち着いた雰囲気は保たれたままです。

この活動の途中で、先生からこんな言葉が出ました。「みんなが書いている内容を見ると、素直にきちんと書いています。その素直さは素晴らしい。今の中学生には、ちゃんとしたことを書かない人達もいるよ。」というように、生徒の活動を認め、自尊感情を高めるような効果的な評価が入ることで、生徒は安心して意欲的に活動を続けます。

しかし、重枝先生は、そこがゴールではないというビジョンももっています。ここまでは、誰でもだいたいできるのですが、その後、この契約を守りきるかどうか、そこが分かれ道なのです。罰則をつくるやり方ではなく、タイミングを計りながら生徒に考えさせていく。そして、「契約」をしっかり意識化していく。もしその「契約」が薄れたり崩壊したら、「再契約」を結べるようにしていくのです。それが「再契約」という考え方です。どのタイミングで行うのが効果的かを見極めるのが、教師のリーダーシップであり、力量です。

1学期は荒れていても気にならないし、先生も気づかないことが多いのです。それを放置したら、2学期になると指導しても指導しても、あとからあとからトラブルが出てきます。そして学級が崩壊したら、手のほどこしようがありません。どこで、がんばるか。まず1学期のうちに、契約を忘れそうになったら、再契約を結ぶことです。

そのためにも、最初に契約を結ぶ段階で、悪いビジョンももたせることが大事です。そうなりたくないな〜と、心の奥で思わせておくことです。だから、学級が崩壊したらどうなるのか、生徒にそれも語っておくことです。そこが大きなポイントです。

まとめの段階で重枝先生が話しています。「契約を結んだら、まずやろうとして下さい。ちゃんとしたら、クラスののびしろが大きくなります。だけど、今もあるやろう、うるさい班が。うるさい人がいる班が。先生はみんな知っとーと。2年の後半から、みんなが大きく成長していることも。だけど、1年の頃からずっと変わらん人もいる。みんなもじーっと見とけ。契約結んだんだから、しっかりやり通してください。」教師と生徒のリレーションをとっています。一人一人のよいところ、伸びたところをちゃんと知っているとはめながらも、ポイントは押さえています。

何でも最初が肝心です。悪いビジョンも両方示しながら、生徒が自分たちで決めた「契約」をクラスで結び、守りきらせることにトライしてみましょう！

3 エクササイズの体験活動

演習 GWT「先生ばかりが住んでいるマンション」

このGWTは、10分くらいで出来る内容です。(本当は小学校の内容)だから、何かとセットで行うなど、時間がある時に実施して下さい。

GWTの目的は

- 1 協力のよさに気づく(やっただけでも味わえる)
- 2 他者のよさに気づく(振り返りが大切)
- 3 自分のよさに気づく(振り返りで発表を聞いて、自分のよさに気づいていく)

クラスで、新しく班決めをした後に行うときの目的は、下記のようになります。

- 新しい班でのリレーションづくり
- 正しく聴くことの重要性に気づく
- 協力の大切さに気づく・他者の良さに気づく・自分の良さに気づく

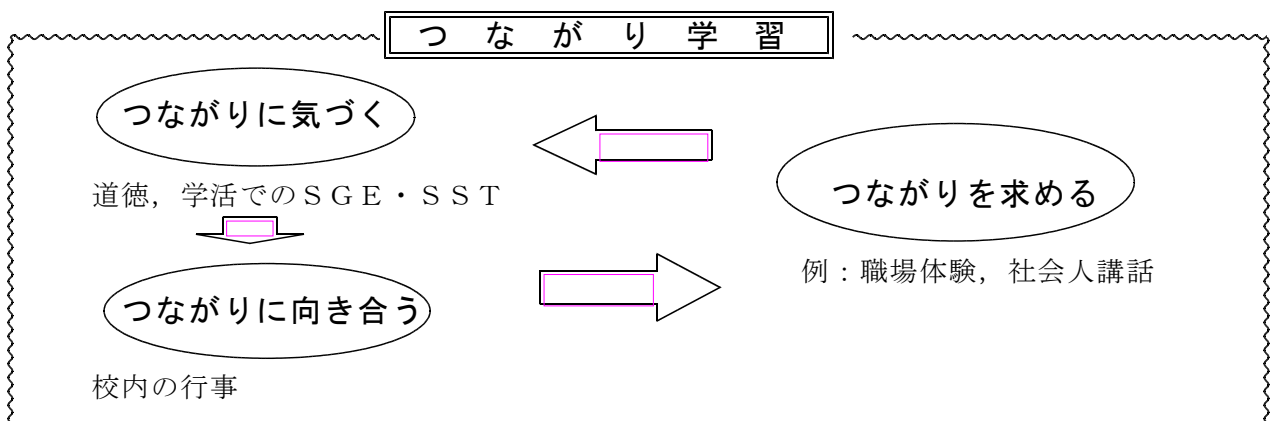
(グループ学習の考え方に関連づける) ことができます。

グループ学習のテーマは

- (ア) 友だちの考えや行動を参考にしよう。
- (イ) 友だちの目から見た自分に気づこう。
- (ウ) 友だちと自分の行動, 考え方, 感情の違いの比較から, 新しい気づきをしよう。

進め方

- ① 5～6人のグループに分ける。
- ② 班長に〈情報カード〉と〈マンション図 (もしくはA3用紙)〉を1枚配る。
ルールを説明する。
「先生ばかりが住んでいる3階建てのマンションがあります。どの部屋にどの先生が住んでいるのかを考えます。情報カードをもとに、みんなで話し合っってマンションの図を完成させてください。」「自分がもらった情報カードは人に見せてはいけません。取り替えてもだめです。机の上に置いてもダメです。他の班の人とは話さないでください。」
- ③ 10分くらいでどの班もできる。
- ④ 終わった班から振り返り用紙Bを配り、黙って記入させる。「誰がどんなことをしたことが課題解決のために役に立ったか」
- ⑤ 発表→教師のコメント
- ⑥ まとめ「グループ学習のテーマ」や「つながり学習のテーマ」に関連づいていることに気づかせる。



このように、いろいろなことに関連づける「大きな視点」をもって、活動を行うことが大切です。その活動を行う「目的」は何なのかを、常に教師が意識して生徒に話すことで、10分間の活動にも、大きな意義が生まれます。

活動自体は、必ず楽しめます。私たち大人でも、はじめて会った者同士でも、協力できるインパクトの強い内容です。だからこそ、活動させる「目的」「意義」を教師が見失うと、ただその場だけの盛り上がりで終わってしまいます。楽しい内容なだけに、取り扱い注意が必要だと感じました。今回の「先生ばかりが住んでいるマンション」では、体験後に、カードに書かれている先生の名前を自校の先生達の名前に変えると面白いのでは、というアイデアが出ていました。

☆ 今回の学習会のキーワード ☆

- 契約期 教育期 再契約
- 教示的→ 説得的→ 参加的→ 委任的
- 風船理論：「集団の中で個が育ち、個の成長で集団が育つ」
- 「ハードパワー」：教師という権威，威圧，権力
「ソフトパワー」：人を引き寄せ説得する力
- **being**：ある傾向：自分の能力を発揮し，実践のプロセスに生きがいを確認
having：持つ傾向：財産，地位にこだわる生き方
- PAプログラム（P：プロジェクト A：アドベンチャー）
＝人の本能を刺激する働きがある

♪ 学習会に参加された先生方の感想♪ （参加人数 27名）

- ・ ちょうど，クラス目標に向けて，生徒に個人の考えを書かせ，班でまとめることをしました。「承認」という意識はさせていませんでしたので，今日の話聞いて，なるほど確認できました。「居心地のよさは与えられるものではなく，獲得するものである。」（自己責任）という考え方を自分も取り入れていきたいと思います。ここに来て，自分の指導のあり方を再チェックさせていただいています。ありがとうございました。
- ・ 今年度，拠点校の指導教官になり，新採の指導をしていく中で「学級づくり」について参考になった。特に「契約をする」ことは大切なのはわかっていたが，どうしても教師の押しつけになってしまい，うまくいかない場合があるのが，生徒に考えさせていくという手法を知ってよかった。ビデオで具体的に見ることができ，雰囲気をつかめた。ありがとうございました。
- ・ 「荒れ始めたとき，うまくいかなかったときに再契約できるように，最初に契約しておく」という言葉に「なるほど～」と納得しました。その契約が自分たちで決めたものであれば，なおさらだと思います。教科の授業でもこの時期に契約を結び，再契約しながら進めていくことが大切だなあと強く感じました。
- ・ 今回初めての参加です。GWTをしていて，他の方は慣れていらっしやると思いました。何度も来られているのですね。私もできるだけ参加します。学級目標は今週決めました。このやり方を別のことに生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 今年度，私も「学級のみんなにこれだけは守ってほしい！」というお願いを1つ書くように話をし，それをもとに全員の願いを学級で読み合い，学級のルールづくりをしていきました。今日のお話を聞いて，「自分のできることを書く」ということが，自分の中になかったため，とても参考になりました。また，ビデオを見る中で，契約違反についての押さえがまだまだ自分は不十分だったということに気づかされたので，教室掲示をする際に，ぜひその押さえをしていきたいなと思いました。今日は本当にありがとうございました。
- ・ 学級，学年，学校を1つの流れとして，ビジョンをもって取り組むことの大切さを感じました。学級がうまくいかない課程，それに対する対応と雰囲気を感じる部分を，1つの形として説明していただき，実感してしまいました。契約の大切さを再認識しました。改めて感じるものがあまりにも多く，一言で感想を書けませんが，この会で感じることを自分なりに解釈して実践していきたいと思います。ありがとうございました。

※「風土会ホームページ」に今までの会報等載せておりますので，ぜひご覧下さい。